

297 卵巣未熟奇形腫の特性（癌遺伝子増幅腫瘍マーカー、染色体、などについて）

水戸済生会病院、石渡産婦人科病院*、
慈恵医大解剖***
岡根真人、石渡 勇*、大沢夏美、常木武敏
石渡千恵子*、石川 博***

〔目的〕未熟奇形腫は種々の程度に分化した3胚葉性成分からなる腫瘍である。一方、癌遺伝子は発癌因子としてばかりでなく、胎児初期発生にも重要な役割をしている。そこで、我々は未熟奇形腫における種々の癌遺伝子の増幅と腫瘍の悪性度との関係について検討した。

〔方法〕純粹未熟奇形腫2例 dermoid cyst 5例の摘出腫瘍とその培養細胞を実験に供した。癌遺伝子は、C-myc, N-myc, K-ras, N-ras, H-ras, EGFR/erb Bについて、主にサザンブロットで検討した。また、組織を培養し、増殖する細胞の生物学的性状（形態、増殖能、異種移植能、染色体、産生する癌胎児蛋白、等）についても検討した。〔成績〕grade 3の未熟奇形腫（未熟な神経成分が多い）の元腫瘍と培養細胞に5～30倍のN-myc 遺伝子増幅が認められたが、他の癌遺伝子の増幅は認められなかった。その他の奇形腫に癌遺伝子増幅は認められなかった。N-myc 遺伝子増幅の認められた未熟奇形腫を培養し、神経芽細胞腫株（HTOMT）を樹立した。HTOMT細胞は、1.短紡錘形で浮遊増殖し、時に培養シャーレの底に付着して神経様突起を出す。2.ハムスターの頬嚢粘膜下に移植可能で神経芽細胞腫を形成する。3.染色体は二倍性で double minute chromosome (DMs) を有する。

4. NSEを産生する。などの性質を有する。他の未熟奇形腫（grade 2; 大脳、小脳組織含有）dermoid cystからは線維芽細胞の培養系が得られた（染色体は正常、異種移植不能、NSE非産生）

〔結論〕N-myc 遺伝子増幅、DMs、NSE産生のある神経芽細胞腫は悪性度が高いことが報告されている。未熟神経成分を含む奇形腫でも、病理学的悪性度判定とともにこれらの検索が重要であろう

298 卵巣癌における癌遺伝子（c-myc, hst, c-fgr, c-ros-1）の増幅、多型性の検討

埼玉医大
富岡康広、石井康徳、小倉博子、田島秀郎、
飯田幸雄、小倉一仁、佐久間 洋、吉成 勉、
近藤俊吾、畑 俊夫

〔目的〕婦人科悪性腫瘍が遺伝子学的に解明されることは、その診断、治療、再発予知などに重要な役割を果すことが期待されている。今回、我々は卵巣癌および卵巣癌培養細胞株での癌遺伝子の増幅、多型性を4種の癌原遺伝子について検討した。

〔方法〕卵巣漿液性腺癌培養細胞株（SMG-1, SHIN-3）より得たDNA及び、卵巣漿液性腺癌3例の手術時摘出標本を直ちに凍結し得られたDNAをEco RIまたはBamHIで完全に消化した。hst, c-ros-1, c-myc, c-fgrをDNAプローブとして使用し、Southern blot hybridizationを行い、遺伝子増幅と多型性を検索した。

〔成績〕(1) fgr 遺伝子において、遺伝子増幅は認められなかったが、SMG-1と摘出卵巣癌の1例に多型性が認められ、それらにfgrの点突然変異または再編成が示唆された。(2) hst 遺伝子においては遺伝子増幅は認められなかったが、摘出卵巣癌の2例に多型性を認め、hstの点突然変異または再編成が示唆された。(3) c-ros-1 遺伝子では、遺伝子増幅と多型性を示すものは認められなかった。(4) c-myc 遺伝子では、多型性は認められなかったが、遺伝子増幅が摘出卵巣癌の1例に認められた。

〔結論〕卵巣癌においても、4種の癌原遺伝子のうち、c-fgr, hst, c-mycの異常が高率に起っていることが示唆された。今後とも更に他の癌原遺伝子の異常についての解析が俟たれている。